

『お寺の学校』 宗教の時間

お浄土 何一つ無駄にならない世界

■阿弥陀さまの願い

『阿弥陀経』は、阿弥陀さまのお浄土(じょうど)の美しく輝くありさまを説いたお経です。

お浄土は、「あらゆる命をもらさず、美しく輝く世界に生まれさせたい」という阿弥陀さまの尊い願いそのもの。そのお心が、お浄土の煌(きら)びやかなすがた(莊嚴(しょうごん))として説かれているのです。「あらゆる命をもらさない」という願いですから、阿弥陀さまのお心とは、「何一つ無駄な命などない」とはたらき続けるお心と味わうことができます。

阿弥陀さまの別名を「無量寿仏(むりょうじゅぶつ)量(はか)ることのできない寿(いのち)の仏さま」といいます。なぜ、量ることができないかというと、「量ることができる」ということは「制限がある」からです。

制限があると、あらゆる命をもらさず救うことはできません。コロナ禍でも多くの命が脅(おびや)かされるような医療現場で「トリアージ(治療優先順位の決定)」がクローズアップされました。すべての命を等しく救いたくても、医療スタッフも、救命のための物資も、時間も有限です。治療の順位を決め、時には助ける命と助けない命の選別を迫られることもあります。

私たちの命には限りがあります。いつまでも若々しく健康ではいられず、だれもが死は避けられません。阿弥陀さまは、限りがあり、人生のあらゆることに優先順位を決めなければならず、そのことで苦しみ悩む私たちの世界を見つめられて、時間的な制約を持たず、必ず私に寄り添い続ける、いのちの仏(無量寿仏)になりたいと願われたのです。

「永遠に誰一人もらさない。救いからもれるような無駄な命など何一つない」と、すべてを包み込んでいく阿弥陀さまの願いに出遇(あ)う時、私たちの心にも、お互いの命は美しく輝いている、どの命も大切にしたい、という思いがめばえてくるのだと、お釈迦さまは説かれます。

お浄土とは、決して空想の理想郷のような世界ではなく、あらゆる命が尊重される、調和のとれた「何一つ無駄にならない世界」なのです。

「2021(令和3)年8月1日(日曜日)本願寺新報」